



卷三

家道訓

孟郊先生著

9
3404
1



口 9
3404
1-3

益軒貝原先生集

家道訓

御校軒壽梓

故
横有策氏

昭和四年五月
寄贈

家道訓卷之一

貝原篤信編

人の世はあつたうもなりき皆身と世とを
てあつとせしむるをいつとわといふ家のな
身のわり極はあつたおしひるまゝ人いふま
り身とていつとてあつとていつとて身と
はうされいあつといふくあつといふされ
んまゝと安くあつてあつといふくあつと
アといふ後乃患とせしむるあつといふ

家道訓

常はれとありて肉好と云くとも一皮好
正しありされは。おのち成りたるも皆なり
なりとある。是れと成るも神也。肉好と云
くとも一皮好と云ふ。父子兄弟夫婦のちじつとく
くうやまひあり。家人とあるれとて思ひあり
人といふまよせり。うけりうせり。うけり。成と
用ひふ。これほどありておのち成りたるも皆なり
と。色慾成りて。心と云く。淫好なり。人

し。是肉の西をちり

父母はつとく常に力と盡く時々の見する
膝下のはくかゝるに。衣履は夕ふさめて
物よりよりとく。さうとくす。いふれさ
人も朝夕のる。時とつとめく。父母乃ちあはれ
つらけく。さう。ひは。ま。とく。り。と。給。食。乃。味
く。さ。て。さ。う。さ。温。の。節。と。さ。う。さ。と。と
す。あ。さ。い。父母とあ。さ。う。さ。夏。は。涼。く。す
い。と。あ。め。出。れ。い。必。父母は。対。面。し。面。し。く。

れい必父母とるりある。父母は對^{タイ}ては親^{チン}
を温^{ニユウ}むよとてえとわく、すくゝんぬ。父母の
心成よりこりやめ。父母の身と止らるふ。二乃に
とて關^{カン}へくゝんぬ。是皆人の子なる者のさうり
たるは也げけよそじくゝんぬ。父母の身と
つひよこひ慕^{シタ}ひておようもくわとれなる
を孝とす。

兄弟に江戸より。まぬわして別わりの妻とさ
らしくおれとて。子牙とわいんいなり

わくむじとるこは彼もよつとてむじ^{パイ}が^{ツカ}か
れちく子方とみらひとこれとつとあ書と
うと。義^{ガイ}をちうすよおとらあううじ
ー。れ子方の教い必^{ガイ}嚴正なるへー

九家の言を以て教訓せしむる人いづれ父母
にうつりつゝと身一乃つともぞ。次々妻
とみらひきこみ身をゆかりと云ふ要^{ニヤ}
^{シモビ}と次は下^{シモ}おとつゝと云ふは世用のくればと
云くもへり。くるりあかちてあかしく

凡あゝありて教人よはりたるよりちと仍
かりて無といふじつ是と要し。若くは
仍とされん人の道これ。若くはなりといふ
教となくす。若くは一人とあるれとて
みろ。そのふ口なる也。教とい人をさうやまひ
てのわがごとくならん。此二のとて人偏よ
かうするそと若くはなり。いふは也。若くはする
ハも教の外なり。父母ともを教とるとな

毎日つゝねにわさそでばくと面談オモテすゝい先父母
乃キ々シヨウ々とうめいひ。飲食のこねとぞい
てぞのへとぞ。ぞりくめあつとまては
とめねちいて。父母乃ちよりめつて。みち

みそ自のつとじんま裸殺をさつけとてえ
奴婢よ自乃不化と云つてもさうある
しあ外るあつた役を令一人の附託の
らに滞なくさうのさうおつてさう門戸
とよく開く家内れ塵をさうし門の外
を中と掃落してさうさうさうさう
サとくわさるゝ家れとさうさうさう
丁。古人家の塵をさうさうさう
迷とい試しとてさうさうさう

ん家の内の子の用をさうさうさう
一。才よ才のわさうの掃落さう
次は掃落とさうさうさう
とさうさうさうさう
の計さう奴婢とあつたさう
をさうさうさうさう
丁。男女内の子のわさう
力。夫洗炮杖持多氏常に掃落さう
みおとて。常に用をさうさうさう

家のまへつひは仁を以て善と爲ふといふ
 こゝろはしむべし。縁故ありは兄弟親戚乃
 多親とみえたり。朋友の令ふは故郷をわが
 采地乃舊人の縁をさすといふ。さうかゝる久
 くまわる多國ある者は何とて新民
 乃より亦たさるわうハ。わうらうにほひ
 てすくさく。乞人の内にてむ人病者。賤人
 解は盲塞立牆をもく子れく。幼して父を祀る
 者なり。今も親族ありてさうさう食はれぬ

り。見らるゝ物とて人となりあるは皆
キウミン
 窮民のよりある人也ありれども。かくるを
ナシ
 能く考へらるゝものなるよしといふに
 くじり。うきなる者なりといふも。かくる
 とく人とすといふ言ひともするべし。世々
モツトモタノ
 最もあつたりたる也。もとより。漢の明帝
カンテイ
 の才東平王の如きは。おどろけよ。明帝
 乃汝國よりわけて。何さうあるかと問ふに。
 なま王國ありて。若くともあるがたし。

約はいつていふやうなるは、一は、一は、
らと、ねらうじやうな、え、え、と、情熱いふ
せ、は、中と、中と、中と、中と、中と、中と、
なり、道なり、福倍は、約を、失ふ、一、の
す、れ、と、の、と、と、と、と、と、と、と、と、
く、と、と、と、と、と、と、と、と、

約の、と、と、と、と、と、と、と、と、
一、は、父族、二、は、母族、三、は、妻族、なり、
父方の一族は、中族と、云、ん、祖より、傳へ、る

血脉は、親疏の、う、り、あ、れ、と、わ、ま、と、同、ま、
ち、り、ゆ、あ、つ、く、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
母方の一族は、父族、と、つ、と、と、と、と、と、
次、は、妻の一族は、母の族、と、つ、と、と、と、
一、は、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
今、れ、は、妻族、と、も、つ、と、と、と、と、と、
み、う、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
不、孝、なり、中、り、と、と、と、と、と、と、と、

いづくいよといふも。将き乃て身
あふ

わの身乃て飲食の侍者ハくして身と
労働と一おろしては合の身とこのか
らりて身と安んずすべし。おろした
らるゝはくのとれも身一はくといひ次
小勇とやういひ。次は耐を中する。この意は
飲食淡薄にして身と労働とれん。食
事清くす。血あがり。脾胃中なること

身代者より。身と労働とれん。耐
難労働より。老の身。老同病。耐
とやういふ。身と労働とれん。耐
はく。安んず。はく。耐。老の身。老同病。耐
か。老の身。老同病。耐。老の身。老同病。耐
か。老の身。老同病。耐。老の身。老同病。耐
軍陣。老の身。老同病。耐。老の身。老同病。耐
りて。老の身。老同病。耐。老の身。老同病。耐
。老の身。老同病。耐。老の身。老同病。耐

家道訓卷之二
其のわさびよくつとむるに利あるを求むとて
てその内ふあり。亦くもなるとよくつとむるに
るるらつとて。農の田畠をよく修りて。其の
それて公役をよくつとむる。工の器用よく
習く。よく修り出。そのさうなる物とて。人
アて人と欺く。高の交易とつとめて。修
ら。その利とて。其の民たんのく。のく

家道訓卷之二

貝原篤信編

其のわさびよくつとむるに利あるを求むとて
てその内ふあり。亦くもなるとよくつとむるに
るるらつとて。農の田畠をよく修りて。其の
それて公役をよくつとむる。工の器用よく
習く。よく修り出。そのさうなる物とて。人
アて人と欺く。高の交易とつとめて。修
ら。その利とて。其の民たんのく。のく

あれどあつらふは利とじなほされぬ福
福いそのづうあるづとじまじふ紙は
よつとあひよてびづととして利とじさへ
あつらふ。一旦^{タビ}人よりき^{サイ}あつらふとて。天
道のみこころにあられた。後の必^{タビ}福あり。人
い當時よく利とじんとて後の福とさ
とに民たにきこえよ。わのあれたとて。紙よく
つと。天とてあつらふとて。紙よく。是わ
この紙のつと。福紙ゆる道なり。

へうなちー和漢古今すれうにせう
 ちうものなり也。凡僕をせうへう
 そあれるものけしとてせうを必
 あやする。つーじー。周子曰。人の難く
 る。必婦人よある。

家の主人より人の僕をせうへうにせう
 へうをせうへうにせう。せうへうを
 れ。せうへうをせうへうにせう。せう
 へう。せうへうにせう。せうへうにせう。

一じう。皆後者なり。てゝある。せうへう
 人。せうへうにせう。せうへうにせう。せうへう
 人。せうへうにせう。せうへうにせう。せうへう

届きの家。せうへうにせう。親戚の出入り。せうへう
 人。にせうのあり。せうへうにせう。せうへう
 の面目。せうへうにせう。せうへうにせう。

せうへうにせう。せうへうにせう。せうへうにせう。

あり。又お名やけより事皆さ通ある人
いふにうらさる人の評論もあつて一。
もう一つは、私欲をなさぬ人とは
うらさるべき者無の理なりと云ふ。
思ふところ命十分といふと、お人^{カキハ}と信よ
うたれ、あきさる多し。人のとりかへも
わさても、わざりなわけ、うらさるに
基^{もと}に、いひのいはゆる、いふまでいふ
うらさるる者に眼^{ミヤ}をあつた、あつて

人々一世の内に事ありて我々棄ててい
くせんといひて決意してゐたもの多し。
知^チ魚^{リョ}ありて能き非を分別し朋友を平^{ヘイ}
生^{セイ}りてゆく者なきこと変^{ヒン}つてあるものある
時人々の心もどうもゆるがゆゑ又いふ
身や人の身もたゞあつたはれいふもの
らしく決意してゐるものありて
いふと能くいふ人はいふもの
人家の母子や娘女のいふものいふ

あるきれ人の心の同じやうなるものを
わい人のちと事わの氣よあつてゐる多
うに。おげとて人の心はさうして、
ありともほらうつてふれへなくおもひ
うも。^{カニ}_{ハナキ} 薄き下り生して名物はなる音
わり人へのゆきのまじりたれど耳よく
うもそめくをよりをもてうもとい
とおこもくは井とて小人婦女より人の
といはる程なちうくうもなりやうな

へらひあうなひされしそはへらへ人のあう
ひや必みよりいぬわきくまへるうへに佐
まうし。是と佐とれい。父子兄弟まねも
必不和やちう物そうへ

妻を救ふふいごも性^{セイ}好^コのふれと。良^{リョウ}女^{ニョ}めれ女^メ
 と依^ヨるふいご。良^{リョウ}女^{ニョ}めれとい族^{ソク}姓^{セイ}のふいご
 いして風俗^{フウソク}のふいごといふと。そ人^{ニン}品^{ピン}のふいご
 あり。おれ^{オレ}のふいごといふと。ふいごのふいご
 いふふいごもふいごといふと。ふいごのふいご

易道言

五

卷之四

虫と世にじろふ男女の別なく内外の瘰癧と
 ころりくすくすに淫乱なりしじんくは男女
 の別なく虫は心くもされはるる才乃とも
 うく礼儀なく風俗みくろくすて淫乱お
 けく虫風とけくく罪みおらるる才と
 ゆくすて淫邪よめくじくくくくくく

婦人女子のきこく外はゆくり節をばとふ。
遊観とこのひらきあへて婦人の肉は居て
家と流るは職とす。外にゆかりとあけき

はるかに親戚の方と出逢ふを喜ば
し通ふ

婦女へしめれ付^ト。法柔^{ニヤ}にそくちをきくまゝのいふ女^{カニ}
邪^{ニヤ}なり。西んよとてうひこす。奴僕^{ヌボク}なるもの
しやうとして義理^{ニヤ}なうりこす。さういふ
あつた方と所々で。あは道理をん
とていふこととをいふことと。
不明^{フメイ}してある和睦^{ワムツ}のうらぐ。只つひ
は家法といふ。これとお射といふ。おのほけ

らひ事すれふ

病人のうへにこれ義と云ふてあるものと云を
 さしもうじく。あるものもあつたのらう。もう
 ひろいおそくこれとも病いと云ふは、ほかに病
 はいつくじといふ。また病といふものは、
 おかゆが病といふてあるものもあつた。これに
 たつてゐる病の時よく告げてもよろしい。
 病を治すとき、病を治すとき、病を治すとき、
 この病を治すときは、病を治すとき、病を治すとき

あゝいふまでもなれは死よのそんでやうなれ
ともしれはあ計^{タイ}はりうれ人衆^{ミユ}新^{ニシ}仲^{ナカ}の
あちりきよのひは人もあきき^{キキ}計^{タイ}りうれ
いふはあゝとあゝいふんはあゝとあゝ
うゝいふゝいふゝ

あゝいふまでもなれは死よのそんでやうなれ
ともしれはあ計^{タイ}はりうれ人衆^{ミユ}新^{ニシ}仲^{ナカ}の
あちりきよのひは人もあきき^{キキ}計^{タイ}りうれ
いふはあゝとあゝいふんはあゝとあゝ
うゝいふゝいふゝ



